

RYOBI®

発電機

GRX-160・GRX-240・GRX-241

取扱説明書

ご使用前に必ずこの取扱説明書を最後までよくお読みください。
また、エンジン部分については添付のエンジンの取扱説明書を最後までよくお読みください。
なお、取扱説明書は大切にお手元に保管してください。

まえがき

このたびは、リョービ携帯用発電機をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、あなたの発電機を安全で、魅力的にご使用していただけるように編集したものです。必ずご使用前にこの説明書をお読みいただき内容を十分ご理解した上で正しい取扱いをされますようお願い申し上げます。

また、この説明書は大切に保管して必要な時にはただちにご利用していただくようお願いします。この発電機を他人に再販したり、譲渡したりする場合は必ずこの説明書を一緒にお渡しください。なお、この説明書は部品と同様に販売しております。必要な場合は、弊社販売店にお申しつけください。

お買い上げいただいた商品や、サービスに関してご意見や、お気付きの点などがございましたら、お買い上げいただいた販売店、もしくは弊社までお気軽にお申し付けいただきますよう、お願い申し上げます。

品質改良等、仕様の変更が実施された場合、本書に記載の文章、イラストが実機と一部異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

工場出荷時、エンジンにオイルは入っておりません。ご使用前に必ず所定のオイル量を注入してください。

* * 安全にお使いいただくために

この取扱説明書には、使用に際して、特に重要な内容を
△危険 △警告 △注意 のマークを使用して表現してあります。
このマークは以下の意味を持ちます。

△警告：守らないと、死傷又は重大な人身事故となる危険性がある。

△注意：けがをする危険性があり、状況によっては、重大な結果に結びつく可能性がある。

- ・ いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ・ お読みになった後は、お使いになる方が、いつでも見られる所に必ず保管してください。
- ・ この機械を他人に貸す場合、この説明書も貸与し、熟読と安全上の注意を伝えてください。

目 次

1. 安全にお使いいただくために	1
1-1 火災事故防止	1
1-2 感電事故防止	2
1-3 排気ガス事故防止	2
1-4 やけど事故防止	3
1-5 その他の注意	3
2. 注意ラベルその他表示位置	4
3. 各部の名称	5
4. 運転をはじめる前に	7
5. 発電機の運転のしかた	9
6. 発電機の点検	12
7. やさしい点検・整備要領	13
点検・整備表	14
8. 長期保存のしかた	15
9. 故障のときは	16
10. 配線図	17
11. 仕様諸元	18

1. 安全にお使いいただくために

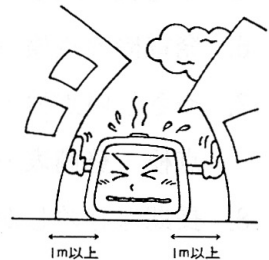
1-1 火災事故防止

△警告：燃料補給時及び取り扱い時には、火災予防に注意のこと。
ガソリン及びオイルは非常に引火しやすく危険な液体なので火災の原因になります。

- ガソリン補給時には
 - ・エンジンを必ず止めてください。
 - ・タバコやたき火等の火気の近くでは補給しないでください。
 - ・ガソリンはタンク注入口の赤線以上には入れないでください。
 - ・こぼれたガソリンは必ず拭き取り、乾かしてから始動してください。
 - ・エンジンの過熱部分に燃料をこぼさないようにしてください。



- 使用場所は
 - ・建物、その他の設備から1m以上離してご使用ください。
 - ・まわりの燃えやすいもの（わらくず、紙屑、木くずなど）に近づけないでください。
 - ・危険物（油脂類、セルロイド、火薬など）を周囲に置かないでください。
 - ・安定した平らな場所で使用してください。



- 使用中には
 - ・発電機を傾けたり、移動しないでください。振動により自然に移動したり転倒して火災が発生したり、発電機が損傷する危険があります。
 - ・箱をかぶせたり、周囲を囲まないでください。オーバーヒートして火災が発生したり発電機が損傷する危険性があります。
- その他
 - ・燃料保管は、保管容器・保管容量・保管場所について法令・省令等により定められていますのでそれらに従ってください。
 - ・消防法及び使用する地域の法律及び条例に従ってください。

1 - 2 感電事故防止

△警告：濡れた状態で発電機を使用しないでください。感電事故により電気ショックを受け人身事故の原因になります。

△警告：発電機のプラグ周囲には触れないでください。高電圧のため感電事故の原因になります。

- ・雨や、雪の中等、発電機が濡れた状態で使用しないでください。
- ・濡れた手で発電機を操作しないでください。
- ・発電機に水をかけないでください。
- ・絶縁不良、及び濡れた出力線に触らないでください。
- ・発電機は必ず接地（アース）してください。



1 - 3 排気ガス事故防止

△警告：排気ガスを吸入するおそれのある場所には、人間・ペット・動植物等を近づけないでください。
排気ガス中には、有害な成分が含まれています。

△警告：排気ガスを吸込まないでください。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素が含まれており死亡事故の原因となります。

- ・屋内では使用しないでください。
- ・倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内など換気の悪い場所では使用しないでください。
- ・排気口は風通しのよい広い場所に向けてください。



1-4 やけど事故防止

△注意：マフラーや、エンジン本体に運転中はもとより、停止後もしばらく触れないでください。発電機運転中は高温になり、やけど事故の原因になります。

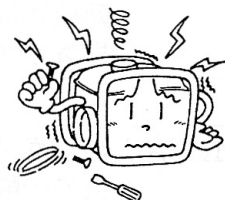
1-5 その他の注意

△注意：電力会社からの電機配線には接続しないでください。接続すると電気器具や発電機の故障、あるいは火災や人身事故の原因となります。

- ・改造は絶対にしないでください。
故障や火災の原因になります。
- ・発電機は屋内配線には絶対に接続しないでください。



- ・地盤の軟らかい所や、小石・土・砂利などで凸凹している場所では使用しないでください。
- ・カバー類（部品等）を外したまま使用しないでください。
- ・使用中に音・臭気・振動などで異常を感じたら、直ちにエンジンを停止して、販売店の点検を受けてください。
- ・始業点検・定期点検は必ず実施してください。



⚠警告：改造は絶対にしないで下さい。改造後の事故等については一切責任は負えません。

2. 注意ラベルその他表示位置

①

	注意		警告
	傷害事故防止のため、 運転前に取扱説明書 を読み、理解して正 しく取扱うこと。		火災や爆発により死傷 するおそれがあるので、 ●給油時にはエンジンを停止 すること。 ●給油口に火を近づけないこと。

②

	警告		注意
	排気ガスによる中毒 のおそれがあるので、 換気の悪い所で使用 しないこと。		ヤケドをする のでマフラーに ふれないこと。

③

製造時期					警告と注意 (発電機用) ・説明書を読んでから作業する。 ・水濡れ厳禁。改造厳禁 ・エンジンのプラグは高電圧注意
品番 15000 -910500					

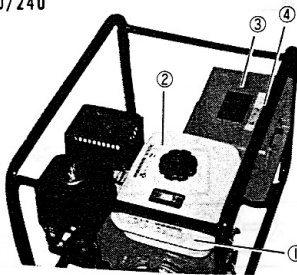
④

RYOBI. GRX-160		オイル確認
▽ 第96-508号		エンジンが自動的に止った時はオイルを 確認し、給油口の口元まで補給する。 また、オイルの汚れが著しい時は交換する。 (オイル交換期) 初回: 20時間目、以後: 100時間毎
定格電圧	100V	ガソリン給油注意
定格電流	13A	
定格出力	1.3kVA	エンジン停止後行う。 火気を近づけない。
定格出力周波数	50Hz	水ぬれ注意
相	単相	
燃料の種類	ガソリン	排気ガス注意
株式会社	ライオン	
直流 定格電圧	12V	
定格電流	8.3A	

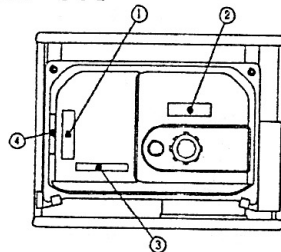
※④はGRX-160の例です。
他機種は一部変更します。

発売元 リョービ販売株式会社

GRX-160/240



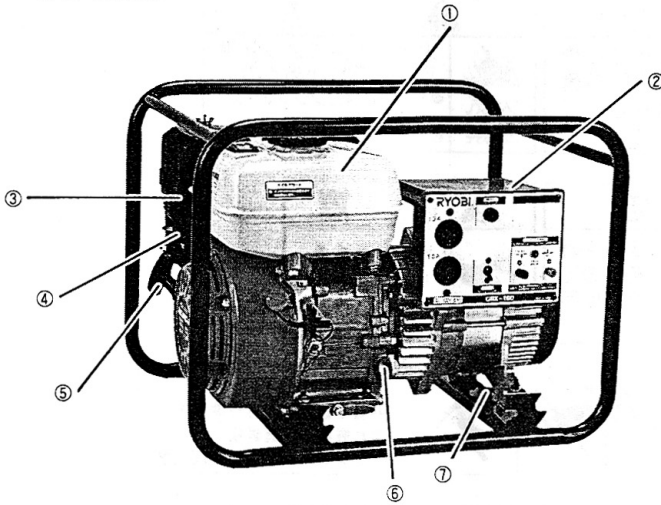
GRX-241



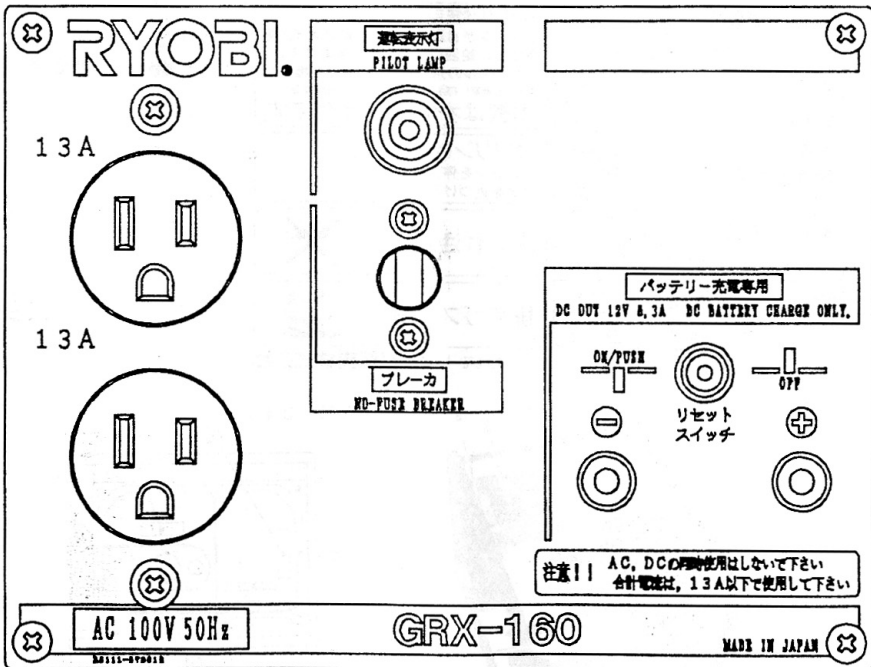
※注意ラベルと貼付位置は機種タイプにより、一部異なる場合があります。

3. 各部名称

GRX-160/240

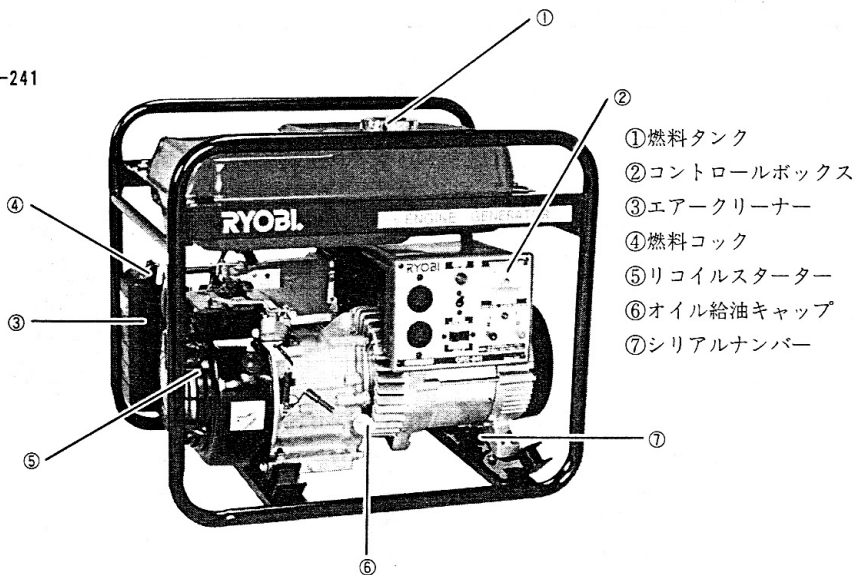


- ①燃料タンク
- ②コントロールボックス
- ③エアークリーナー
- ④燃料コック
- ⑤リコイルスターター
- ⑥オイル給油キャップ
- ⑦シリアルナンバー

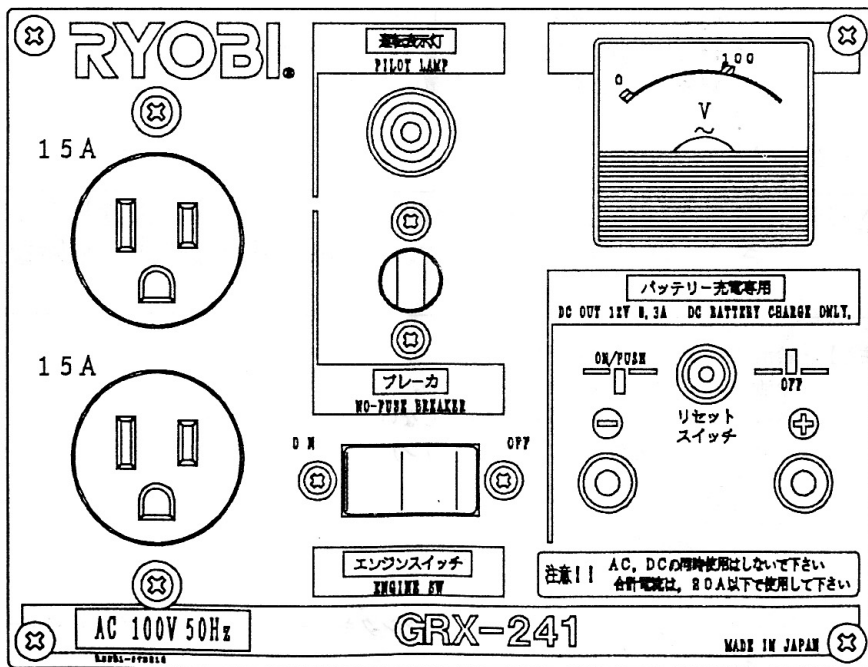


コントロールボックス例：GRX-160 (50Hz) の場合

GRX-241



- ①燃料タンク
- ②コントロールボックス
- ③エアークリーナー
- ④燃料コック
- ⑤リコイルスターター
- ⑥オイル給油キャップ
- ⑦シリアルナンバー



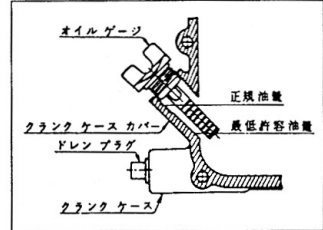
コントロールボックス例：GRX-241 (50Hz) の場合

4. 運転をはじめる前に

4-1 エンジンオイルの点検・補給

- (1) オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。
- (2) オイルが少ないときには、新しいオイルを規程量の上限まで入れてください。
- (3) オイルの汚れが著しいときは交換してください。
(オイル交換の方法は7-1 エンジンオイルの交換参照)

機 種	エンジン	正規オイル量
GRX-160	GX160	600cc
GRX-240/241	GX160	600cc



【注意】

- ・オイルは冬期（10℃以下）はSAE10W-30又はSAE5W20を推奨します。夏期（10℃以上）の場合はSAE30、SAE10W30又はSAE40を使用してください。
- ・オイルの品質はSD級以上のものを御使用ください。
- ・オイル量が規定面より低くなった場合、オイル不足警告装置がはたらき直ちにエンジンを停止させます。このような状態になったら水平な場所で発電機（エンジン）の油面を点検してください。もし、オイル量が不足していたら補給してください。
- ・エンジンオイルの質及び量を低下させると焼付損傷をまねきます。
- ・オイルの点検・補給は発電機を水平に置いて行なってください。

4-2 ガソリンの補給

△警告：燃料補給時及び取り扱い時には、火災予防に注意してください。ガソリン及びオイルは非常に引火しやすく危険な液体です。

- 【注意】
- ・給油時は火気を近づけないでください。
 - ・給油時は必ずエンジンを止めてください。
 - ・燃料タンクのフィルターを外して給油しないでください。
 - ・使用ガソリン 無鉛（レギュラーガソリン）

MODEL	タンク容量
GRX-160/240	3.6ℓ
GRX-241	11ℓ

- (1) 燃料コックを「CLOSE」位置にし、タンクキャップを取り外し、給油口の赤マークの給油限界位置まで給油してください。
- (2) 給油後キャップは完全にはめ込み、いっぱいに戻してください。

4 - 3 発電機周囲の点検

△警告：排気ガスを吸入するおそれのある場所には、人間・ペット・動植物等を近づけないでください。
排気ガス中には、有害な成分が含まれています。

△警告：排気ガスを吸込まないでください。排気ガスには、無色無臭の一酸化炭素が含まれており死亡事故の原因となります。

- ・発電機のまわりに燃えやすいもの、危険物がないことを確認してください。
- ・建物その他の設備から1 m以上離してください。
- ・風通しは良いですか。換気は充分ですか。
- ・通気口は風通しの良い場所に向いていますか。
- ・周囲に火の気はありませんか。
- ・発電機を置いた場所が小石や砂利で凹凸でないか、地盤が軟らかくないですか。又、発電機が傾かずに安定して置かれていますか。やむをえず使用する場合は燃えにくい材質の平板などを敷いてください。
- ・発電機をダンボールなどで囲わないでください。

4 - 4 発電機を使用する前に電気器具の接続を切ってください

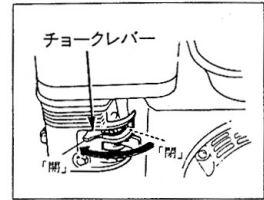
△警告：発電機を始動する前に電気器具の接続を切ってください。
接続した電気器具が不意に動作を始め人身事故の原因になります。

発電機を始動する前に必ず、接続電気器具のスイッチを切るか、コンセントを抜いてください。発電機にスイッチの入ったままの電気器具が接続されていますと、発電機の始動困難・発電困難となることがあります。又、電気器具が不意に作動を始めるので大変危険です。

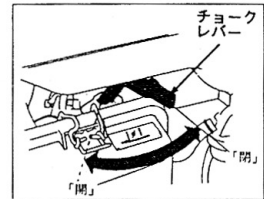
5. 発電機の運転のしかた

5-1 始動

- (1) オイル、燃料を点検し補充します。
- (2) ノーヒューズブレーカーを「OFF」にします。
- (3) 電気器具の接続コンセントが抜いてあるか確認します。
- (4) 燃料コックレバーを『開』の位置にします。
- (5) チョークレバーを引いて全閉の位置にします。
一度暖まったエンジンを再始動する場合はチョークレバーを半開 (1/2開) して始動します。
- (6) エンジンスイッチを「ON」にします。
- (7) リコイルスタータを重さを感じる位置 (圧縮点) からいきおいよく引っ張ってください。
- (8) エンジンが始動すると運転表示灯が点灯します。2～3分間暖機運転を行なってください。



SGAタイプ



SGOタイプ

【注意】数回リコイルを引いて始動しないときには、チョークレバーを『全開』にして始動操作を行なってください。

- (9) エンジンがかかったら、チョークレバーはエンジンの調子を見ながら徐々に開いていき、最後には必ず全開にしてください。

5-2 交流 (AC) の取り出し方

- (1) 使用する電気器具のスイッチが切れていることを確認してからプラグを交流コンセントに接続します。
- (2) ノーヒューズブレーカーを「ON」にしてください。
- (3) 電気器具のスイッチを入れて使用してください。

【注意】この発電機で使用できる電気器具は、次の電力のものまでです。下表は「使用可能上限の目安」です。この表以下の消費電力の器具を選定してご使用ください。

(単位 W)

電気器具	MODEL GRX-160		MODEL GRX-240/241	
	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz
白熱灯・ヒーター	1100	1250	2000	2400
蛍光灯・水銀灯	650	850	1200	1400
電動工具	500	600	1200	1400
ポンプ・コンプレッサー	250	300	450	550

電動工具などモーターを使用した器具は、起動電流が大きい場合があります、3～5倍の電力が必要で、この時の起動電流が使用範囲を越えないようにしてください。使用できる範囲に制限があります。販売店に御相談ください。

- ・2つ以上の交流コンセントを同時に使用するときは、消費電力の合計値が定格出力の値を超えないようにしてください。
尚、使用する器具の消費電力の目安は前頁です。
- ・コンセント1つあたりの使用範囲は表示の電流値（15A）以下であり、かつ前頁の消費電力の値が定格出力の値を超えないようにしてください。
- ・電動工具などモーターを使用した器具は、起動電流が大きい場合や器具の状態によって使用できないことがあります。このような場合には、お買上げの販売店にご相談ください。
- ・電気器具の消費電力が使用範囲を越えた場合、又は電気器具に異常（ショート等）があった場合には、ノーヒューズブレーカーが「OFF」になるか、発電機の回転が異常に低くなったりして、使用器具が正常に働かなくなることがあります。このような時には一旦ノーヒューズブレーカーを「OFF」にしてコンセントを抜き使用器具の消費電力が大き過ぎないか、器具に異常がないかを点検してください。（回転が低下したまま使用すると故障の原因となります。）
- ・アース端子にアース線を接続して、先端を必ず地中にアースします。
- ・長い電線を使用すると、電線内の抵抗が高くなるため、電圧降下が起こり、電気製品への入力電圧が低くなります。その結果、電気製品にダメージを与える原因となりますので注意が必要です。
例として、電線10mにおける電圧降下値を次表に表わします。
表の〈〉は使用しないでください。

公称断面積 (mm ²)	導体		使用電流							
	素線数／素線径 (mm)	外径(mm)	6A	8.5A	12A	16A	20A	29A		
0.75	30/0.18	1.1	3.1V	〈5V〉	〈7V〉	〈8V〉	〈11V〉	〈15V〉	電 圧 降 下	
1.25	50/0.18	1.5	1.9V	3V	〈4V〉	〈5V〉	〈7V〉	〈10V〉		
2.0	37/0.26	1.8	1.2V	2V	3V	3V	〈4V〉	〈6V〉		
3.5	45/0.32	2.5	0.7V	1V	1.5V	2V	2V	3V		
5.5	70/0.32	3.1	0.4V	0.6V	1V	1V	1.5V	2V		
8	50/0.45	3.7	0.3V	0.5V	0.5V	1V	1V	1.5V		
14	88/0.45	4.9	—	0.3V	0.4V	0.5V	0.6V	1V		

- ・コードリールを使用する場合は電線をドラムから引出してください。巻いたままでは電圧降下が大きくなります。

3 直流（DC）取り出し方

- (1) バッテリーから他の器具に接続されているコードはすべて取り外してから、バッテリー(+) (－)の極性を間違いなく接続します。

- (2) バッテリーの各層の栓をはずします。
- (3) バッテリーの液量を点検して、下限(LOWER)に近いときは蒸留水を上限(UPPER)まで補給してください。
- (4) 発電機を始動して充電します。充電時間はバッテリーの放電状態によって異なりますので、比重計でバッテリー液の比重をチェックしながら充電してください。
バッテリー液の比重が1.26～1.28になれば充電完了です。
・例：12V-40AHの自動車用バッテリーの場合、完全放電状態から5～6時間でほぼ良好な充電状態になります。

[12Vバッテリー充電専用]

直流(DC)ターミナルは、12Vバッテリー充電専用です。

出力は最大12V-8.3A(100W)までです。

【注意】同時使用禁止

- ・直流電源として使用するとき、決して交流を同時に取り出さないでください。また、交流電源として使用するとき、決して直流を同時に取り出さないでください。
- ・交流と直流を同時に使用されると温度が上がり絶縁を劣化させ発電機の寿命を縮めます。またバッテリー充電時には交流の電圧が定格以上に上昇し使用電気器具に悪影響を及ぼします。

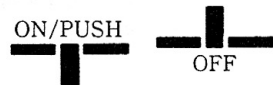
⚠警告：火気を近づけないようにしてください。バッテリーから引火性の可燃性ガスが発生して爆発の危険性があり、人身事故の原因になります。充電は風通しのよい場所で行なってください。

⚠警告：バッテリー液を目や皮膚に触れさせないでください。酸性の強い液体ですから失明や、やけどを起こす原因になります。万一付着したときは、すぐに多量の水で洗い医師の診療をうけてください。

5-4 直流回路リセットスイッチ

通常、リセットスイッチは「ON」になっており、直流電気が取出せません。直流電気取出し時、バッテリーに異常があった時や、間違った接続によって過負荷が生じた時にリセットスイッチは「OFF」となり発電機の直流回路を保護します。

再度押せば、「ON」になります。



5-5 オイルアラート

エンジンには、オイル不足装置が付いているため、クランクケース内のオイルが規定量以下になると、エンジンが自動的に停止します。エンジンが自動的に停止した場合は必ず燃料とオイル量を点検してください。

・エンジンオイルの補給

オイルが規定量より少ない場合には、新しいオイルをオイルレベルの上限まで補給してください。

- 【注意】
- ・発電機を傾斜させて運転すると、クランクケース内のオイルの油面が変化し、誤作動することがあるので発電機は水平状態にて運転してください。
 - ・この装置はオイル劣化に対する検知はできませんのでオイルは毎日点検してください。又、交換の方法は7-1を参照してください。

5-6 発電機のとめ方

通常の場合

- (1) 接続した電気器具のスイッチを切ります。
- (2) ノーヒューズブレーカーを「OFF」にします。
- (3) 接続した電気器具のコンセントを抜きます。
- (4) エンジンスイッチを「OFF」にしてください。
- (5) 燃料コックレバーを「OFF」位置にします。

緊急の場合

- (1) エンジンスイッチを「OFF」にしてください。

6. 発電機の点検

安全のため、そして故障を未然に防ぐために、発電機を定期的に点検整備する必要があります。

6-1 日常点検

ご使用になる前に是非、次の点検を行なってください。



6-2 定期点検と修正

- (1) 燃料パイプ類は使用時間にかかわらず2年で交換してください。
尚、点検時において漏れ等のあるものは、2年を待たずに交換してください。
- (2) 修正、分解、清掃時、所定時間に満たない部品でも使用状態によっては、修正又は、交換を行ない標準性能の維持をはかってください。

7. やさしい点検・整備要領

7-1 エンジンオイルの交換

〈オイル交換時期〉

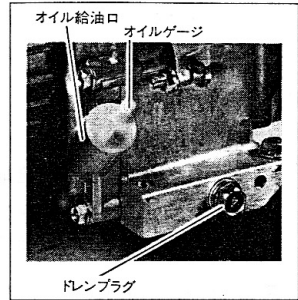
初回：20時間後 以後：100時間毎

使用するオイルについては4-1 エンジンオイルの点検・補給を参照ください。

【注意】 エンジンオイルの質および量を低下させると、焼付損傷をまねきます。

〈オイル交換方法〉

- (1) ドレンプラグを外し、オイルを抜きます。
エンジン停止後の暖かいとき又は、オイル給油キャップを外すことで、早くきれいに抜くことができます。



⚠警告：エンジン停止直後のオイルは高温です。やけどの危険があります。停止後しばらくしてからオイルを抜いてください。

- (2) オイルを完全に抜いた後、ドレンボルトを確実に締め付けます。
- (3) オイル給油キャップを外し、発電機を水平に置いて、オイルゲージの上のきざみ線の位置まで新しいオイルを入れます。
- (4) オイル注入後、オイル給油キャップを確実に締め付けてください。

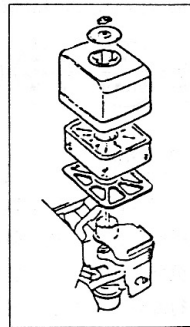
7-2 エアークリーナの清掃

エアークリーナのエレメントが目詰りすると、発電機の出力不足や運転不調を起こし燃料消費も多くなります。定期的に清掃するよう心掛けてください。

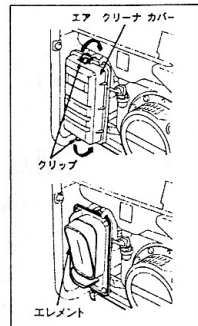
清掃時間：50時間毎

【注意】 ごみやほこりのひどい場所で使用したときは、毎日(または10時間毎に)清掃してください。

- (1) カバーを手で外します。
- (2) エレメントに附着したホコリやゴミをキャブレター側に入れられないよう注意深くエレメントを抜いてください。
- (3) エレメントを中性洗剤で洗浄後よく絞り乾燥してください。その後エレメントを新しいエンジンオイルに浸し、固く絞って余分なオイルを振り落としてください。



GRX-160/240



GRX-241

- (4) ケースの汚れを拭いてください。
- (5) エLEMENTの『INSIDE』側を奥（キャブレター側）にしてケースに挿入します。
- (6) カバーを取付ける際にELEMENTの端がねじれたり、まくれたりしないように注意してください。

項目	点検・整備時期		
<始業点検と簡単な点検整備> エンジンオイルの点検補給 各部清掃及び締付け点検 エンジンコントロールスイッチの点検 コントロールパネル取付部品の点検 ACコンセント DCターミナル ノーヒューズブレーカー	始業時		
エアークリーナーELEMENTの洗浄	50時間毎（注1）		
エンジンオイルの交換	100時間毎（初回20時間後）		
点火プラグの清掃	100時間毎		
点火プラグの間隔調整	100時間毎		
フューエルストレーナーの清掃	100時間毎		
<定期点検と修正>	100時間毎	300時間毎 （1年毎）	500時間毎 （2年毎）
点火プラグの間隔調整	○		
フューエルストレーナーの清掃	○		
点火プラグの交換	○		
キャブレターの清掃	○		
※シリンダーヘッドのカーボン除去	○		
※バルブクリアランスの点検調整	○		
※バルブおよびバルブシートの点検	○		
※オーバーホール		○	
※ローターの点検		○	
※ステーターの点検		○	
エンジンマウントの交換			○

【注意】

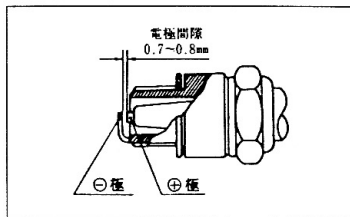
- ホコリの多い場所で使用した場合、エアークリーナー清掃はより短い間隔で行なってください。
 - ※印項目は販売店にお申しつけください。
- ・オイル交換の際排除したオイルは正しい処理を行ない屋外の川や下水道、庭などに流さないでください。

7-3 点火プラグの点検・調整

<点検・調整方法>

- (1) プラグキャップを外し、プラグレンチで点火プラグを取り外します。
- (2) プラグがカーボンで汚れているときは、プラグクリーナーまたはワイヤーブラシなどで汚れを落とします。
- (3) プラグキャップを点検し、火花すきまが広い場合は側方電極をつめて0.7~0.8mmに調整します。
- (4) プラグを交換するときは、次のものを使用してください。

BP6ES (NGK)	W20EP-U (NIPPONDENSO)
BPR6ES	W20EPR-U



【注意】・点火プラグの点検、調整のときは、感電や火傷しないように充分注意してください。

8. 長期保存のしかた

☆発電機を長期間使用しないときは、次のような手入れを行なって保管してください。

- (1) 燃料コックを「ON」位置に合せ、燃料タンク内のガソリンを抜きます。
 - ・タンク内にガソリンを長期間入れたままにしておくと、腐敗・変質して、次に使用するときエンジンが始動しなくなる場合があります。
- (2) 燃料コックを「OFF」位置に合わせます。
- (3) 気化器のドレンバルブをゆるめてガソリンを排出します。
排出後、ドレンバルブを締めます。
- (4) エンジンオイルを交換します。(6-1参照)
- (5) エアクリーナーエレメントを清掃します。(6-2参照)
- (6) 点火プラグを外し、その穴から、潤滑油(約5cc)を流し入れ、リコイルスタータを軽く数回引いた後、点火プラグを取付けます。(6-3参照)
- (7) 各部のボルト・ナットに弛みがあれば増締めします。
- (8) 発電機の各部をきれいに清掃します。防錆スプレーがあれば、吹き付けておきましょう。
- (9) リコイルスタータを引いて重くなったところで止めておきます。
- (10) 屋内の湿気やほこりの少ない換気のよい所へカバーをして保管してください。

【注意】・ガソリンを抜くときは、火気に充分注意してください。

・発電機の水洗いは絶対にしないでください。

9. 故障のときは

発電機が始動しないときや、始動しても電気が取り出せないときは、まず次の点検を行なってください。

9-1 始動しないときは

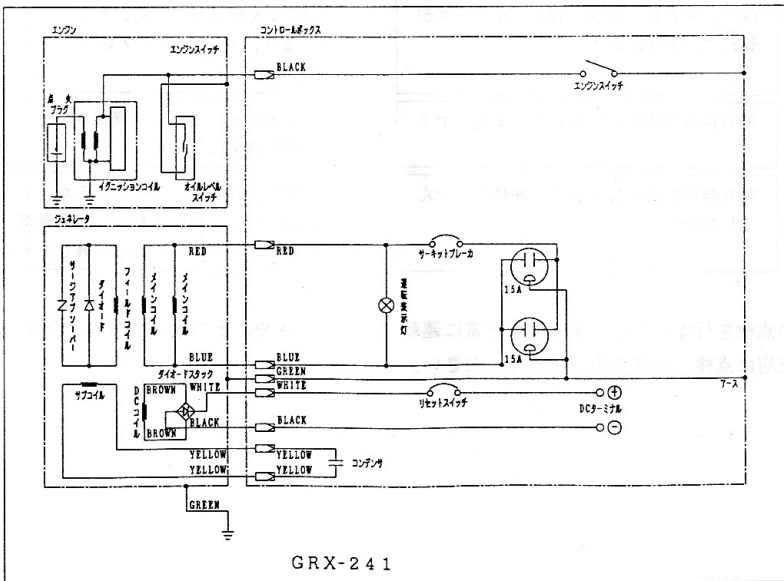
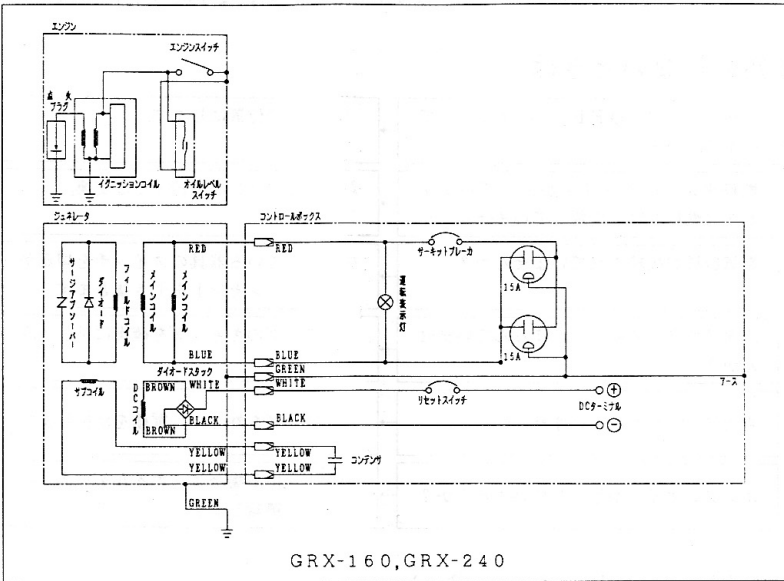
燃料コックが「OFF」の位置になっていませんか？	「ON」の位置にします。
燃料タンクにガソリンが入っていますか？（燃料が腐敗変質していませんか）	新しいガソリンの補給または交換。
電気器具が接続されていませんか？	接続されている器具のスイッチを切るか、または、コンセントを引き抜きます。
点火プラグのキャップがゆるんでいませんか？	点火プラグのキャップを確実に押し込みます。
点火プラグが汚れていませんか？	点火プラグを外して、電極を清掃します。
エンジンオイルが不足していませんか？	不足している場合は、オイルを注入口の口元まで補給します。

9-2 電気が取り出せないときは

交流（AC）サーキットブレーカーがOFF、または、直流（DC）ヒューズが切れていませんか？	電気器具の消費電力は適正か、器具に異常がないかを確認してから、ヒューズを交換します。サーキットブレーカーをONにします。
電気器具の接続がゆるんでいませんか？	交流コンセント、または、直流コンセントの接続を確実にします。
電気器具を接続したまま、始動しませんでしたか？	一度、電気器具のスイッチを切るか、または、コンセントを引き抜いて、発電機の運転が安定してから、再度接続します。

☆以上の点検を行っても、発電機が正常に運転できないときや、その他の故障の場合は、お買上げの販売店に点検、修理を申し付けてください。

10. 配線図



11. 仕様諸元

製品仕様

型式		GRX-160		GRX-240		GRX-241		
発電機	周波数	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	50Hz	60Hz	
	形式	単相2極回転界磁形ブラシレス発電機						
	定格電力	100V						
	最大出力	1.5kVA	1.9kVA	2.2kVA	2.8kVA	2.2kVA	2.8kVA	
	定格出力	1.3kVA	1.6kVA	2.0kVA	2.4kVA	2.0kVA	2.4kVA	
	電流	13A	16A	20A	24A	20A	24A	
		交流	12V-8.3A					
		直流	12V-8.3A					
	電圧調整方式	コンデンサ方式						
力率	1.0cosφ							
エンジン	名称	GX160						
	形式	空冷4サイクル傾斜型OHV式ガソリン(OHV)						
	総排気量	163cc						
	定格出力	3000rpm 3.5HP	3600rpm 4.0HP	3000rpm 3.5HP	3600rpm 4.0HP	3000rpm 4.0HP	3600rpm 4.0HP	
	点火方式	無接点式マグネット点火(トランジスタ)						
	燃料タンク容量	3.6ℓ (満タン)				11ℓ (満タン)		
	定格連続運転時間	約3.8時間	約3.3時間	約3.5時間	約3.0時間	約9.5時間	約8.5時間	
始動方式	リコイル式							
寸法	545×410×405mm				545×420×420mm			
乾燥重量	34kg			35kg		39kg		
電気用品取締法形式認可番号	▽第96-508号	▽第96-509号	▽第96-508号	▽第96-506号	▽第96-508号	▽第96-506号		

※この仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明の点があった場合には、ご遠慮なくお買上げの販売店、またはリョービ販売営業所にお問い合わせください。

*改良のため、お断わりなく製品仕様が変更することがあります。

RYOBI

発売元

リョービ販売株式会社

リョービ株式会社